



SANSHIN GROUP

Monthly Report on the ESG

Oct.2026

INDEX

1. サンシングループ 経営理念
2. サンシングループ 経営ビジョン
3. 「徳のある商人」を育成するために
4. TOP MESSAGE
5. グループ社員による今月のつぶやき
6. ESG Report（品質）
7. ESG Report（環境）
8. ESG Report（地域貢献活動）

我々はお客様を愛し愛される 徳のある商人を目指し 世界の文化文明の発展に貢献する

● 経営ビジョン

お客様満足度の向上 / 利益ある成長・発展

● 代表挨拶

弊社は、さまざまなメーカーの電子部品を取り扱い、商社機能とメーカー機能を兼ね備える技術商社です。お客様のニーズに応じた最適な技術シーズを提供し、多様な提案を通じて、事業成功のお手伝いをさせていただきます。

「徳のある商人」であることを企業理念に掲げ、創業から60周年を迎えます。これからも変わらぬ価値を提供し続け、絶えず成長と発展を探求してまいります。引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 石井 宏宗

～「徳のある商人」を育成するために～



自身の経営貢献

- 経営理念から個人目標まで体系的に展開し、自身の企業貢献を明確化
- 自発的にチャレンジしやすい環境

経営参画

- 若手メンバーで中期経営計画作成プロジェクトを行い、新規事業や社会貢献をアイデア&ドリーム
- 経営事業報告会や月次/週次ミーティングで経営状況や方針の情報共有

キャリア

- 年齢・性別関係なく役職に抜擢され、キャリアを構築できる仕組み
- EIGYO育成プログラムによる一人一人の細やかな成長支援

知識・資格・学び

- 社内大学「サンシン大学」：経営・法務・営業・技術・品質管理・WEBマーケ・生成AI・語学・健康などの講座をリアル/オンラインで開講（就業時間内、会社負担）
- 資格取得支援（簿記・TOEIC・ビジ法・QC検定・MBA/MOTなど）
- 工場見学、企業見学、研修会、YAMINABE会



働く環境

- 社員の働く環境の整備
 - ① 育児休業中の給与補助
 - ② 育児短時間勤務中も給与維持
 - ③ こども手当
 - ④ 介護にあたる社員への柔軟なサポート
 - ⑤ 在宅勤務・テレワーク対応
 - ⑥ 扶養家族のいる社員への人事評価加点
 - ⑦ 勤務間インターバル制度
 - ⑧ 時間単位の有給休暇取得制度
 - ⑨ メンタルヘルスの一環としてオンライン相談フォーム設置（匿名可）
 - ⑩ パワーランチ制度による昼食負担軽減
 - ⑪ オフィスグリコによるリフレッシュ効果
- 「健康優良企業」「健康経営優良法人」等、外部認証の取得
- 副業兼業可能

ネットワーク

- 新入社員へのメンターによるサポート
- 入社後研修で東京・関西などの社員とのフラットな業務交流
- 社内交流会、懇親会、コンパの開催

TOP MESSAGE

AIの普及やデータセンターの拡大などにより、世界の電力需要が増加する中、省エネルギー技術の重要性が高まっています。

電子部品業界においても、環境負荷の低減は重要な課題となっています。

例えば、GaN（窒化ガリウム）やSiC（炭化ケイ素）を用いたパワー半導体は、電力変換時の損失低減に貢献します。また、電源に使用されるトランスやインダクタなども高効率化によって機器全体の省エネルギーを支えています。

こうした技術革新を支える一方、中小電子部品メーカーでも製造工程の見直しによる歩留まり改善、設備の電力使用量の把握、材料や梱包材の無駄の削減など環境負荷の低減とコスト削減を両立できる取り組みを限られた人員や資金の中でまずは身近な改善から着手し、環境への貢献と経営効率の向上を積み重ねていくことで、電子部品メーカーとしての競争力につなげていくことが必要と考えます。

サンシン電気株式会社
取締役 河原 崇

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHIN East

北海道では今年サケの漁獲量が昨年の半分ほどと不漁なのだそうです。しかし、シイラが豊漁でサケ以上に水揚げされている地域もあるようです。シイラは回遊性が強く、暖かい海域を好むため、海水温上昇による影響も指摘されています。水温や黒潮の流路によって豊漁海域が毎年変わる魚だそうですので、必ずしも海水温上昇による生息域の変化とまでは言い切れませんが、気になるトピックスです。(Y.Y.)

SANSHIN West

10月は「食品ロス削減月間」です。災害に備えて非常食を用意する機会もありますが、期限切れで廃棄してしまうのはもったいないので、普段から非常食を少しずつ消費し、食べた分を買い足す「ローリングストック」を取り入れれば、食品ロスを減らしながら、いざという時の備えにもなります。まだ準備されていない方も食べ物を無駄にしない防災を考えてみませんか？(F.H.)

SANSHIN Hong Kong

私の知り合いで新しくファーウェイの車を購入したが、LEVEL 4の自動運転である。行き先をナビで指定するだけで駐車まで行ってくれる。中国は、中央政府主導でこれらの動きが非常に早いですが、日本は安全面重視で、技術はあるが、制度が進むのが非常に遅い。日本は高齢者の事故が目立つが、田舎に住む高齢者にとって免許返納したくとも車がないと買い物、病院等へも簡単に行けない。日本こそ、早急にこの制度を早く確立してもらいたい。(A.A.)

SHINKOWA

この近隣で秋を感じさせる落花生の乾燥風景(ボッチ)ですが、やはり台風の影響で収穫が減少しているようです、近くの畑はボッチの数が例年の6~7割くらいに見えます。まだこれからも台風の接近、長雨がありそうですので、備えを十分にして注意しましょう。(M.N.)

SC2

【次世代の洗濯】10/13から開催されたIT見本市「CEATEC2026」において、シャープが「排水・洗剤不要の洗濯機」を公開しました。水をろ過・浄化して繰り返し使用し、水の使用量を96%削減するというものです。被災地の避難所等での使用を想定しているこの洗濯機は、アルカリイオン水で洗浄するため洗剤も不要。もし家庭にも普及すれば節水はもちろん水や空気を汚す悪質洗剤もなくなり、素晴らしい環境保全が期待できそうです。(M.I.)

ESG Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

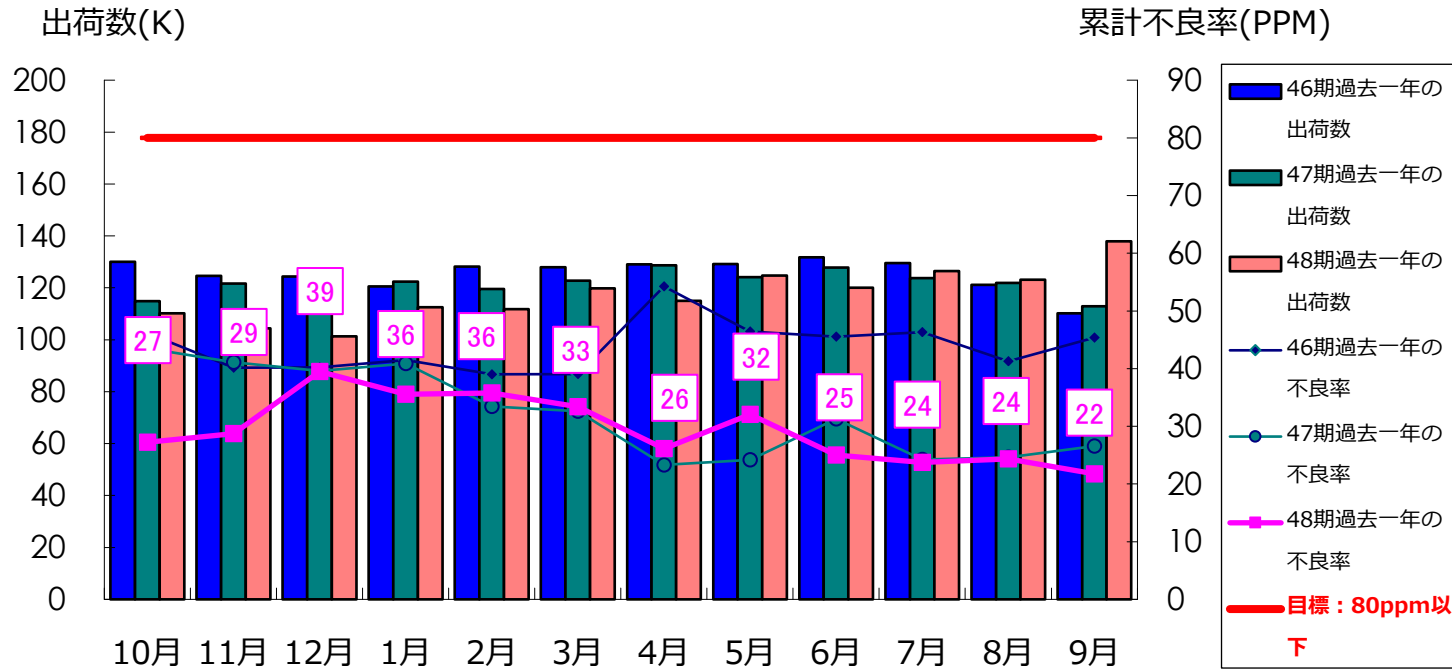
1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質状況

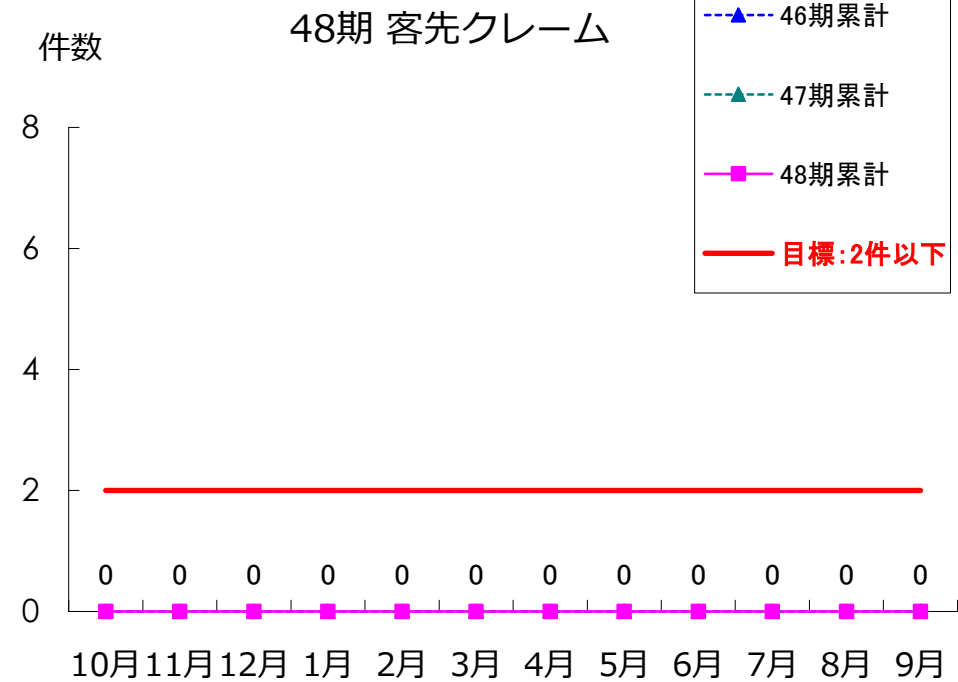
納入品不良率（目標：80ppm）
48期の累計不良率(解析依頼含む)：22ppm

客先クレーム（目標：2件以下）：0件

48期 市場不良率「ユニット製品」



48期 客先クレーム

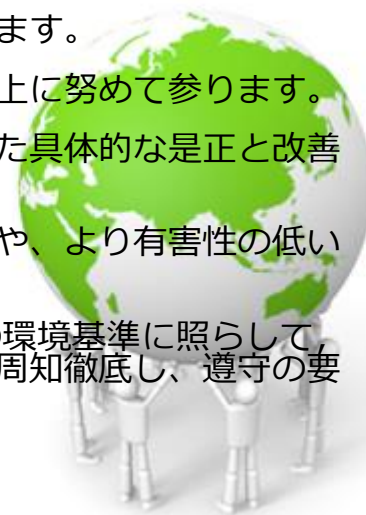


ESG Report (環境)

サンシングループの環境方針

サンシングループは、環境の保全と向上に関する企業活動を重要なCSRと認識し、継続企業の責務として、将来に渡り環境の保全と向上に貢献していくために、以下の環境方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も環境マネジメント・マニュアルを遵守し、お客様に信頼される継続企業として、環境保全と向上に努めて参ります。
2. 「紙・ごみ・電気」の低減を定量的に徹底管理し、地球環境の汚染予防をはかって参ります。
3. 独自性のあるイノベーション活動を通して、地球環境の汚染防止をはかって参ります。
4. 「安全・安心・快適」な職場環境を追求し、すべての社員が健康的に働くことのできる環境を実現して参ります。
5. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して環境の保全と向上に努めて参ります。
6. 環境マネジメント・システムは、定期的な内部監査およびマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善をはかって参ります。
7. 環境放出化学物質の管理環境中に放出されると害を及ぼすと特定された化学物質については、使用量の削減や、より有害性の低い物質への代替、漏洩の防止などにつとめてまいります。
8. 製品に含まれる有害物質を特定し、「RoHS」等の法規制および「JAMPガイドライン」などの業界と顧客の環境基準に照らして、非含有およびそのための管理体制を遵守します。また、サプライチェーン上流の取引先にもこれらの基準を周知徹底し、遵守の要請を行ってまいります。



TOPICS

■ COP31はいつ・どこで開催？トルコ開催の意味や注目されるテーマは？

2026年11月、世界各国が気候変動対策について話し合う「COP31」が開催されます。

COPという名前はニュースなどで耳にするものの、「そもそも何をする会議なの？」「開催国はどうやって決まる？」「日本に住む私たちにも関係がある？」と疑問に思う人も多いかもしれません。

2026年のCOP31は、地中海に面するトルコの都市・アンタルヤが舞台です。さらに今回は、トルコが議長国を務めながら、オーストラリアが気候交渉を主導するという、これまでとは異なる協力体制が組まれています。

☑ COP31とは？2026年11月にトルコ・アンタルヤで開催

COP31とは、「国連気候変動枠組条約（UNFCCC）」の第31回締約国会議です。COPは「Conference of the Parties（締約国会議）」の略称で、気候変動対策について各国が交渉を行う世界最大級の国際会議です。

1992年に採択された国連気候変動枠組条約を土台として開催されており、2015年のCOP21では世界の平均気温上昇を産業革命前と比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求する「パリ協定」が採択されました。

UNFCCCによると、11月11～12日には各国首脳らが参加するWorld Leaders Climate Action Summitも予定されています。COP31では、これまで国際社会が掲げてきた気候目標を、実際の政策や投資、事業へどう移していくかが大きなテーマになります。

COP31議長国側も、今回の会議を「Implementation COP（実行のCOP）」、そして「COP of the Future（未来のCOP）」と位置づけています。つまりCOP31は、新しい約束をつくることだけでなく、すでに交わした約束をどう実行に移すかが問われる会議なのです。

■ COP31開催概要

- ・開催期間：2026年11月9日（月）～20日（金）
- ・開催地：トルコ・アンタルヤ
- ・会場：Antalya EXPO Center
- ・議長国：トルコ
- ・COP31議長予定者：ムラト・クルム環境・都市化・気候変動相
- ・交渉議長：オーストラリアのクリス・ボーエン気候変動・エネルギー相

TOPICS

☐ そもそもCOPの開催国はどうやって決まる？

オリンピックや万博のように、複数の候補国を比較して「最も適した国」を国連が選んでいると思う人もいるかもしれませんが、しかし、COPの開催国を決める仕組みは少し異なります。

COPの議長国は原則として、国連における5つの地域グループの間で持ち回りとなっているからです。対象となるのは「アフリカ」「アジア太平洋」「東欧」「中南米・カリブ」「西欧・その他（WEOG）」の5つのグループ。開催を担当する地域グループの加盟国が協議を行い、その地域を代表してどの国が開催を申し出るかを決定します。その後、候補国からUNFCCC事務局へ正式に開催の申し出が行われます。

さらにUNFCCC事務局が、会場や交通、技術、財政面など大規模な国際会議を受け入れるための条件を備えているか確認し、COP本会議で正式に開催地が決定される仕組みです。そのため「気候変動対策が最も進んでいる国がCOPを開催する」という仕組みではありません。

また、議長国と実際の開催地が必ず一致するわけでもありません。たとえばCOP23ではフィジーが議長国でしたが、大規模会議を開催するための事情から、実際の会議はドイツ・ボンで行われました。COPの開催地を見るときは、「なぜその国が選ばれたのか」だけではなく、こうした国連の地域ローテーションの仕組みを知っておくことも大切です。

☐ COP31ではトルコとオーストラリアの双方が開催を希望していた

COP31が注目される理由のひとつが、開催国決定までの経緯です。COP31については、トルコとオーストラリアがともに開催を希望していました。最終的にはCOP30においてトルコの開催申し出が受け入れられましたが、単純に「トルコに決まり、オーストラリアが撤退した」という形にはなりません。

両国の合意によって、トルコがCOP31議長国・開催国となり、オーストラリアが「President of Negotiations（交渉議長）」を担うという新しい協力体制が採用されたのです。正式な「Türkiye-Australia Partnership Modalities」では、トルコ側がCOP31議長を務め、開催や首脳級会合、Action Agendaなどを担当します。

一方、オーストラリア側の代表はCOP副議長に就任したうえで、COP31における交渉を主導します。交渉についてはオーストラリア側の「President of Negotiations」に権限が委任され、トルコと協議しながら進める仕組みです。COP31議長予定者のムラト・クルム氏も、このトルコ・オーストラリア方式について、過去のCOPとは異なる新しい協力モデルだと説明しています。

TOPICS

☐ なぜトルコ・アンタルヤでCOP31を開催するのか

COP31の舞台となるアンタルヤは、トルコ南部、地中海に面する都市。先ほど紹介した通り、COP開催地は地域グループ内での調整や国からの開催申し出、大規模会議を開催できるインフラ、財政・技術面など、複数の条件を経て決定されます。

気候変動の影響を受けやすい地中海地域だから

トルコは地中海地域に位置し、気候変動による熱波、干ばつ、洪水、山火事などの影響を受けやすい国のひとつ。世界銀行もトルコを含む地中海地域について、熱波や干ばつ、洪水、暴風などに対する脆弱性を指摘しています。近年はこうした気候関連災害が地域社会や企業活動にも影響を与えており、気候変動への「適応」が重要な課題となっています。

アンタルヤを含むトルコ南部では森林火災のリスクも無視できないのです。地中海・エーゲ海沿岸を中心としてトルコの森林の広い範囲が山火事リスクにさらされているという指摘もあることは留意しておきたいものです。

世界各国が会議室の中で「将来の気候変動」を議論する一方、その窓の外に広がる地中海地域では、すでに気候変動への対応が現実の社会課題になっています。

その意味でアンタルヤは、「気候変動は未来の話ではない」というCOP31の背景を実感しやすい場所だといえるでしょう。

トルコはエネルギー転換の途中にあるから

もうひとつ注目したいのが、トルコ自身のエネルギー事情です。

国際エネルギー機関（IEA）が2026年9月に公表したレポートによると、トルコでは再生可能エネルギーの導入が進み、2025年には発電量の43%を再生可能エネルギーが占めました。トルコ政府は2053年のネットゼロを掲げ、2025年には初の気候法も成立しています。

しかし、その一方で化石燃料への依存も残っています。2024年には石炭が一次エネルギー供給の約4分の1を占め、発電量では3分の1を超えました。再生可能エネルギーを増やしながら、既存のエネルギーシステムとの折り合いをどうつけるのか。これはトルコだけの問題ではありません。日本を含め、脱炭素とエネルギーの安定供給を両立しなければならない多くの国に共通する課題です。

「完成した脱炭素社会」でCOPが開かれるのではなく、エネルギー転換の真ただ中にある国で、その実行方法について話し合う。この点も、COP31を見るうえで興味深いポイントです。

TOPICS

☐ COP31では何が話し合われる？注目されるテーマ

COP31の詳細な交渉結果は、当然ながら会議が終わるまでわかりません。また、COP31議長国が掲げる「Action Agenda」と、各国政府が正式に交渉して採択するCOP決定は同じものではありません。

「約束」から「実行」へ進むImplementation COP

COP31を理解するうえで重要な言葉が「Implementation COP（実行のCOP）」です。2015年にパリ協定が採択されて以降、世界各国は温室効果ガス削減目標をはじめ、さまざまな気候変動対策を掲げてきました。しかし、目標を発表するだけでは気温上昇を止めることはできません。

- ・発電所や送電網をつくる
- ・建物の省エネルギー化を進める
- ・企業が生産方法を変える
- ・農業を気候変動に強くする
- ・必要な地域へ資金を届ける

こうした具体的な社会の仕組みへ落とし込んで初めて、国際的な目標は現実の変化につながります。COP31議長国は「Dialogue（対話）」「Consensus（合意）」「Action（行動）」を基本原則として掲げ、各国の約束を測定可能な成果へ変えていく方針を示しています。

クリーンエネルギーへの転換と「電化」

COP31で特に前面に出ているテーマが、エネルギー転換と電化です。COP31議長国はAction Agendaの目標として、世界の最終エネルギー需要に占める電力の割合を2035年までに35%へ引き上げる「35% by 2035」を掲げています。

ここでいう「電化」は、単に電気をたくさん使うという意味ではありません。たとえば化石燃料を直接燃やしていた自動車や暖房、産業設備などを電気で動かし、その電力自体を再生可能エネルギーなど低炭素な電源へ切り替えていく考え方です。

同時に、再生可能エネルギーを増やすだけでは電力システムは成り立ちません。送電網や蓄電、エネルギー効率なども重要なテーマとして位置づけられています。

TOPICS

ごみ削減とサーキュラーエコノミー

ごみとサーキュラーエコノミーも無視できません。COP31議長国は、廃棄物の増加を2035年までに半減させることや、製造・生産分野で循環型素材の利用割合を少なくとも15%へ引き上げることなどをAction Agendaの目標として示しています。

気候変動対策という再生可能エネルギーやEVなど「エネルギー」の話を想像しがちです。しかし、私たちが使う製品には、原料の採掘、製造、輸送、使用、廃棄という長いライフサイクルがあります。

大量につくり、大量に使い、大量に捨てる経済から、修理や再利用、リサイクルなどによって資源を循環させる経済へ移行することも、温室効果ガスの削減につながります。

気候変動に強い都市や建物

COP31では都市や建築物も重点テーマ。これは、私たちの暮らしとも非常に近い問題です。断熱性能の高い住宅や省エネ設備を普及させれば、冷暖房に必要なエネルギーを減らせます。

一方、気温上昇が進めば、都市では熱中症対策や冷房需要への対応、豪雨への備えなども必要です。ヨーロッパ・中央アジアの都市について、2050年までに猛暑日の増加が予想され、とくに南欧やトルコで影響が大きくなる可能性が指摘されていることもあり、温室効果ガスを減らす「緩和」と、すでに起きている気候変動へ備える「適応」。これからの都市には、その両方が求められます。

食料・農業やグリーン産業も重要テーマに

気候変動に強い農業や食料システム、低炭素型の産業への転換も重点分野とされています。

猛暑や干ばつ、豪雨などは農作物の生産にも影響します。また、鉄鋼、化学、セメントをはじめとする産業分野では、大量のエネルギーを使うため、世界全体の脱炭素化を進めるうえで産業構造そのものの転換も避けて通れません。

COPというひとつの会議で、エネルギーから建物、ごみ、農業、産業までが同時に議論されるのは、気候変動がもはや「環境だけの問題」ではなく、経済や暮らしを含めた社会システム全体の問題になっているからです。

TOPICS

☐ COP31でもうひとつ注目したい「太平洋」の存在

COP31の会場は地中海のアンタルヤですが、今回のCOPを考えるうえで「南太平洋の存在」はもうひとつフォーカスしたいポイントです。トルコとオーストラリアの合意ではCOP本会議をトルコで行う一方、その前段階となるPre-COPを太平洋島嶼国で開催することが決められました。2026年10月5～8日には、フィジー、ツバル、オーストラリアが協力して公式Pre-COP閣僚会合などを開催し、ツバルでは首脳級イベントも実施されました。

単なる会議場所の分散ではなく、太平洋島嶼国のなかには、海面上昇や高潮、塩害などによって、暮らしや国土そのものが気候変動の影響にさらされている国があります。

気候変動によって大きな影響を受ける地域の人々の声を、世界の気候外交へどう反映するかといった観点で、今回のCOP31は、地中海のトルコと太平洋地域をつなぐ特徴的な会議でもあります。

☐ 気候変動対策では「誰が負担するのか」も避けて通れない

ここで重要になるのが「気候正義」という考え方です。気候変動の影響は、世界のすべての地域へ同じように現れるわけではありません。歴史的に多くの温室効果ガスを排出してきた国と、排出量は比較的小さいにもかかわらず海面上昇や干ばつなどの深刻な影響を受ける国との間には、大きな格差があります。

そして脱炭素化や災害への備えにもお金が必要です。再生可能エネルギー設備の整備、洪水対策、干ばつに強い農業への転換、災害後の復旧の進行など、こうした対策に必要な資金を誰が負担し、どの地域へ届けるのかという「気候資金」は、現在の国際気候交渉における重要なテーマです。気候変動を「世界全体でCO₂を減らせばよい」という数字だけの問題として見るのではなく、その負担と被害を誰が背負っているのかまで考えることが、COPを理解するうえでは欠かせません。

TOPICS

☑ COP31は私たちの暮らしにどう関係する？

COPは「各国の首脳や政治家が話し合う、自分とは遠い世界の出来事」に感じるかもしれません。しかし、COP31で掲げられているテーマをひとつずつ見ていくと、実は私たちの日常と重なるものばかりです。

- ・家で使う電気をどのようにつくるのか。
- ・猛暑でも快適に暮らせる住宅をどうつくるのか。
- ・自動車や公共交通はどう変わるのか。
- ・買った商品を使い終えたあと、ごみにするのか、もう一度資源として使うのか。
- ・気候変動によって農作物が育ちにくくなったとき、食料をどう確保するのか。

COPの会場だけに存在するものではありません。もちろん、COP31で何かが合意されたからといって、翌日から日本の電気料金やごみの分別方法が変わるわけではありません。一方で、国際社会がどの分野へ資金や技術を集中させるのかという方向性は、各国の政策や企業の投資、新しい商品・サービスの開発にも長期的な影響を与えます。

気候変動の国際交渉を知ることは「遠い国の環境ニュース」を知ることではないのです。私たちがこれからどのようなエネルギーを使い、どのような街に住み、何をつくり、何を捨てる社会を選ぶのか。その大きな設計図がどちらへ向かおうとしているのかを知ることでもあります。

☑ まとめ | COP31開催を「遠い国の会議」で終わらせないために

2026年11月9日から20日まで、トルコ・アンタルヤでCOP31が開催されます。今回の特徴は、トルコが開催国・議長国を務めながら、オーストラリアが交渉を主導し、さらに太平洋島嶼国でもPre-COPが行われるという新しい協力体制にあります。

そしてCOP31が掲げる大きなキーワードは「実行」。これまで世界が掲げてきた気候目標を、エネルギー、産業、建物、資源循環、農業、金融といった現実の社会へどう落とし込んでいくのかが問われます。

地中海沿岸で気候変動の影響と向き合うトルコ。そして海面上昇などの課題を抱える太平洋島嶼国。遠く離れた地域をつなぐ今回のCOP31は、気候変動がひとつの国だけでは解決できない問題であることを、あらためて映し出す場にもなるでしょう。

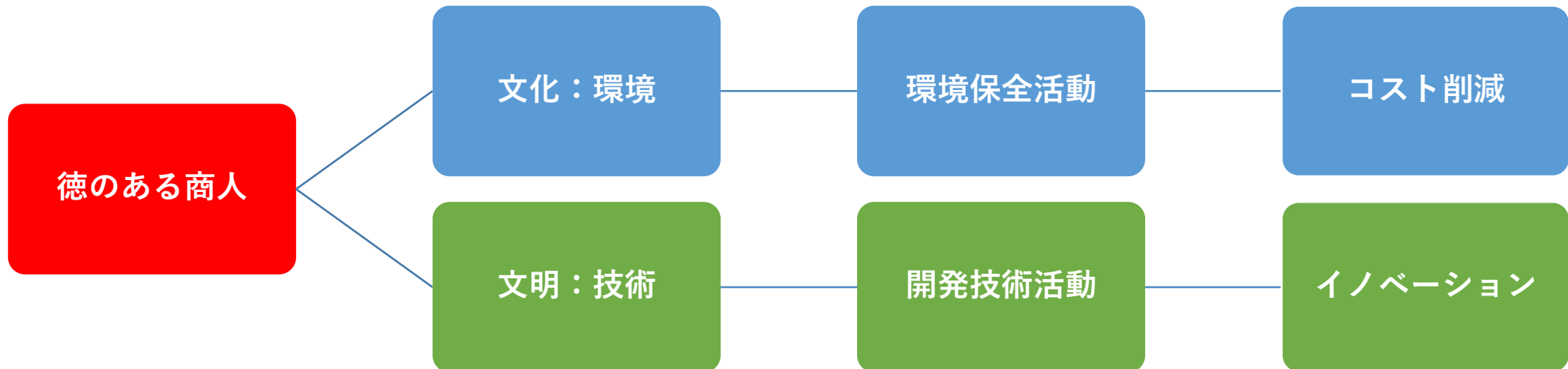
サンシングループ環境経営への歩み

1. 環境経営の基本マインド

＊サンシングループ経営理念

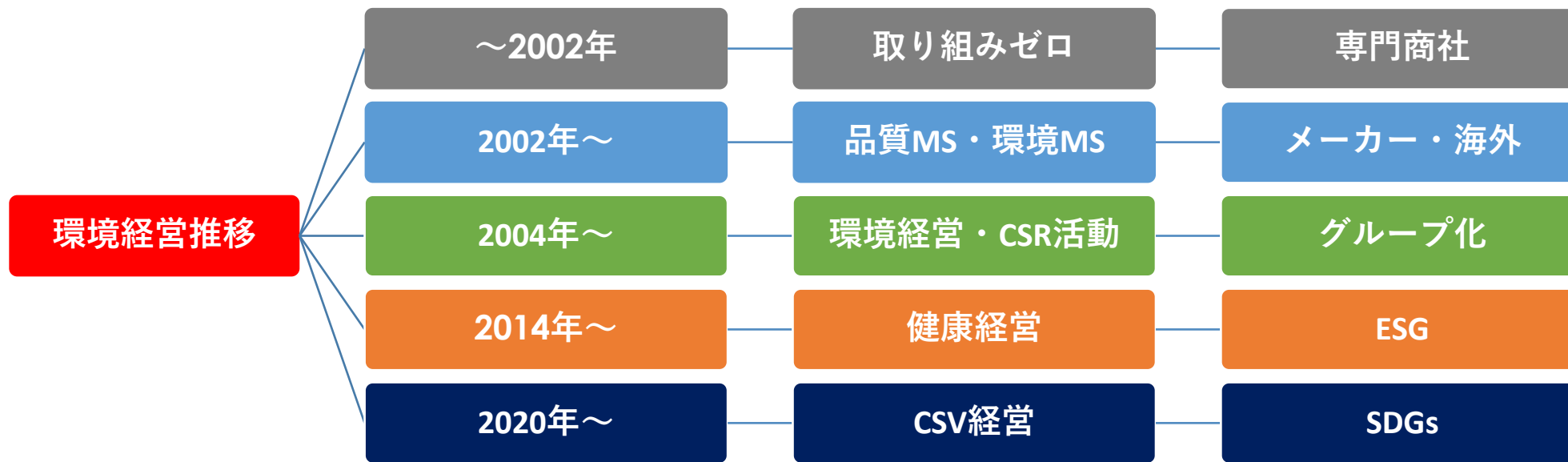
私たちは お客様を愛し お客様から愛される

徳のある商人を目指す：世界の文化・文明発展のために



2. 環境への取り組み

2002年から現在までの経緯



2. 環境への取り組み

～2002年

環境対応はコスト増の要因であり取り組む必要はないという認識.

2002年～

専門商社から海外商社，メーカーへと展開するなかで環境MSを整備.

2004年～

グループ企業体の発足に伴い経営理念を創設. CSRを能動的に展開.

2014年～

健康経営を標ぼう，以後，東京都認定.

2020年～

CSV経営を宣言，ESGとSDGsを重視.

3. コスト削減実績

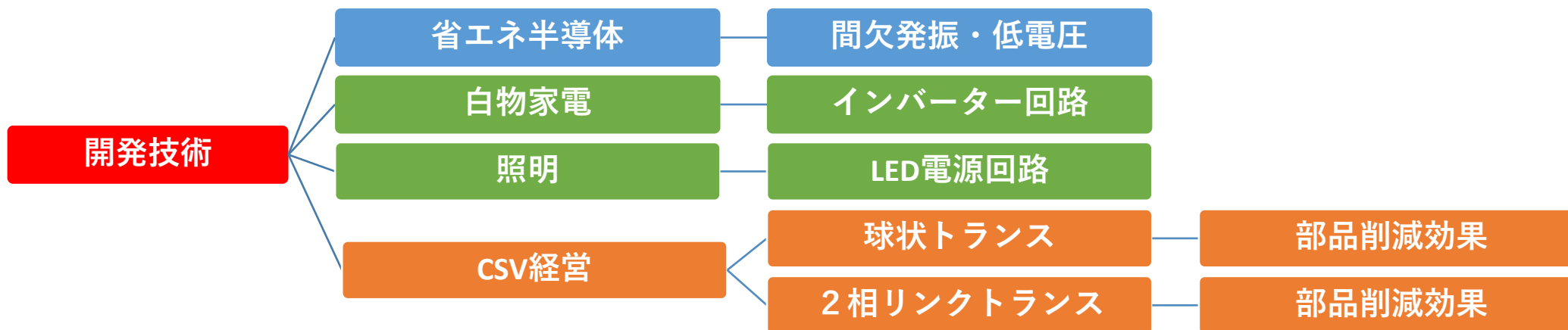
- **紙/ゴミ/電気**，三種の神器，徹底削減の継続
- **テレワーク**による電気/交通費削減
- 環境MS監査費用は増加（リアルコスト）
- 環境活動時間は増加（バーチャルコスト）
- コスト削減費用と増加費用の差額をマネジメント

⇒グループで年間約4,000万円※のコスト削減を実現！

※2004年度対比

4. イノベーション事例

- ・ 環境保全の開発技術ビジネス



4. イノベーション事例

省エネ半導体

専門商社として拡販

白物家電

白物家電向け**インバーター回路**の設計

照明

LED照明用の回路設計および電源製造

CSV経営

環境保全を鑑みた電子部品を**自主開発**

環境とイノベーションを結び付けた技術開発

CSV経営 モノ×コト＝価値創造

5. Scopeの対応

- Scope 1：該当なし
- Scope 2：電気排出量のみ（J/C/P合計）
『ESGレポート』掲載
- Scope 3：該当事項のみ集計
 - 4：輸送配送
 - 5：廃棄物
 - 6：出張交通費（旅費除く）
 - 7：従業員交通費

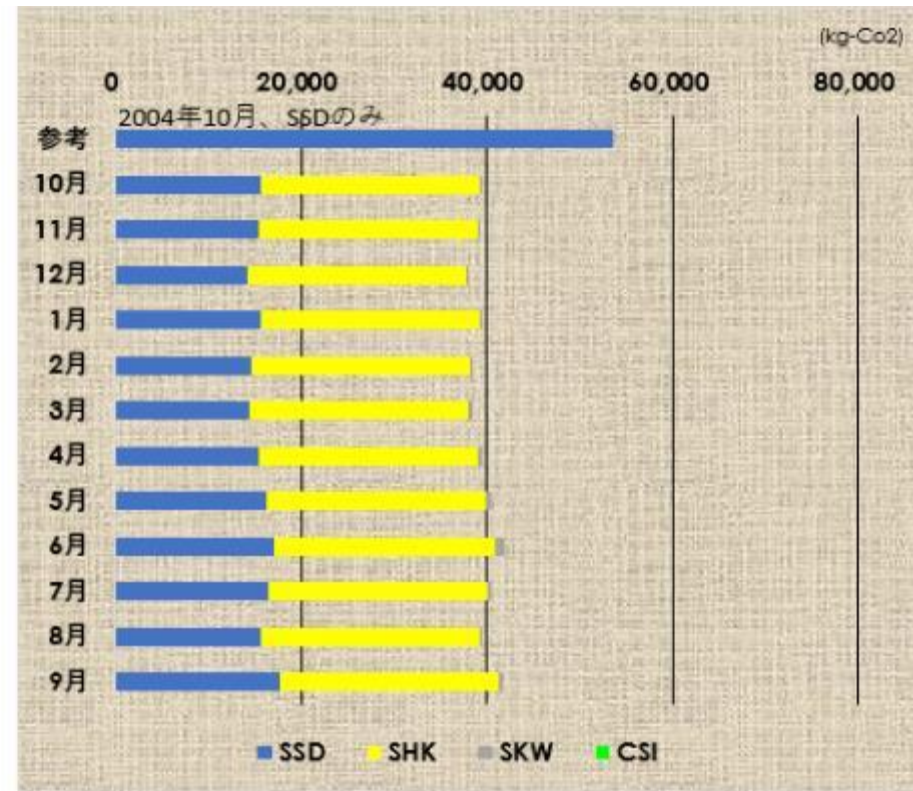
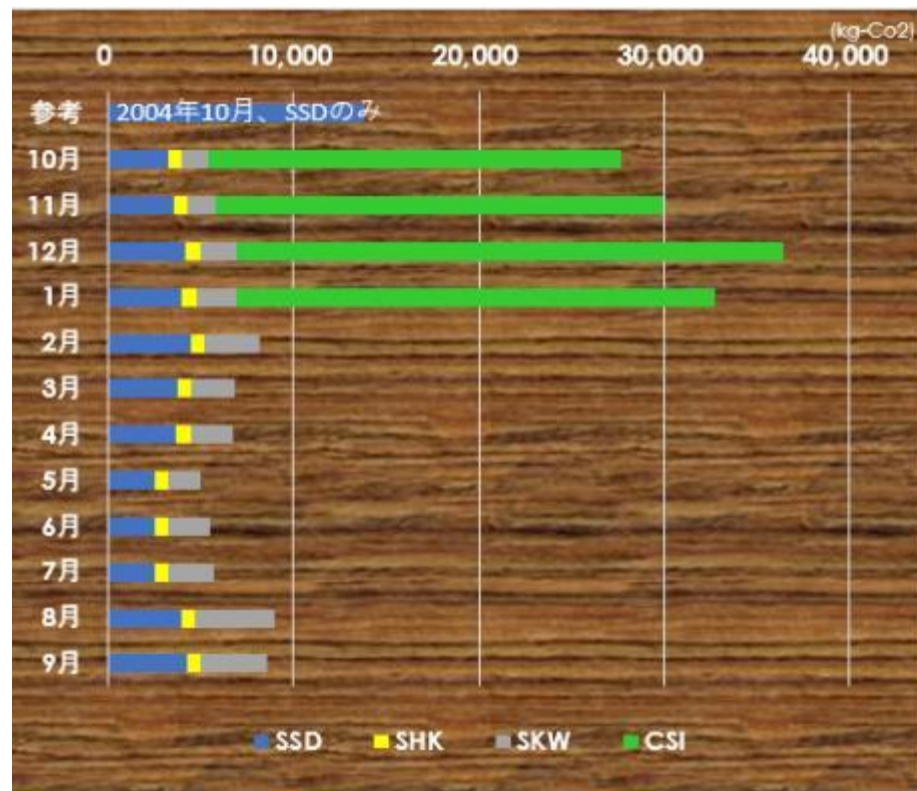
6. まとめ

- ・ほとんどのSME他社が取り組んでいない項目だからこそ「進取の精神」で取り組みます！
- ・事業活動の中で可能な小さいことからコツコツ継続します！
- ・環境保全活動はコスト削減とイノベーションのきっかけになります！
- ・サンシンググループはこれからもサステイナブル企業としてサステイナブルな社会のために環境保全活動に取り組めます！

SSGサプライチェーン排出量

サンシングループではサプライチェーン排出量前年比▲5%に取り組んでいます

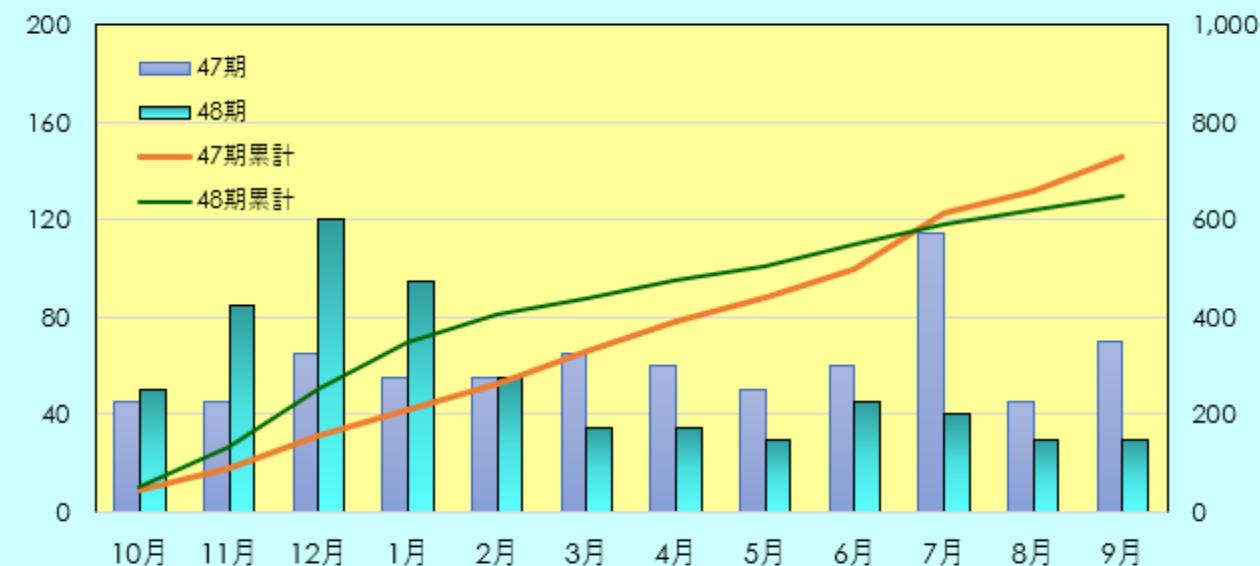
- Scope 1：該当なし
- Scope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）
- Scope 3（事業者の活動に関連する他社の排出）



一般廃棄物 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(kg)

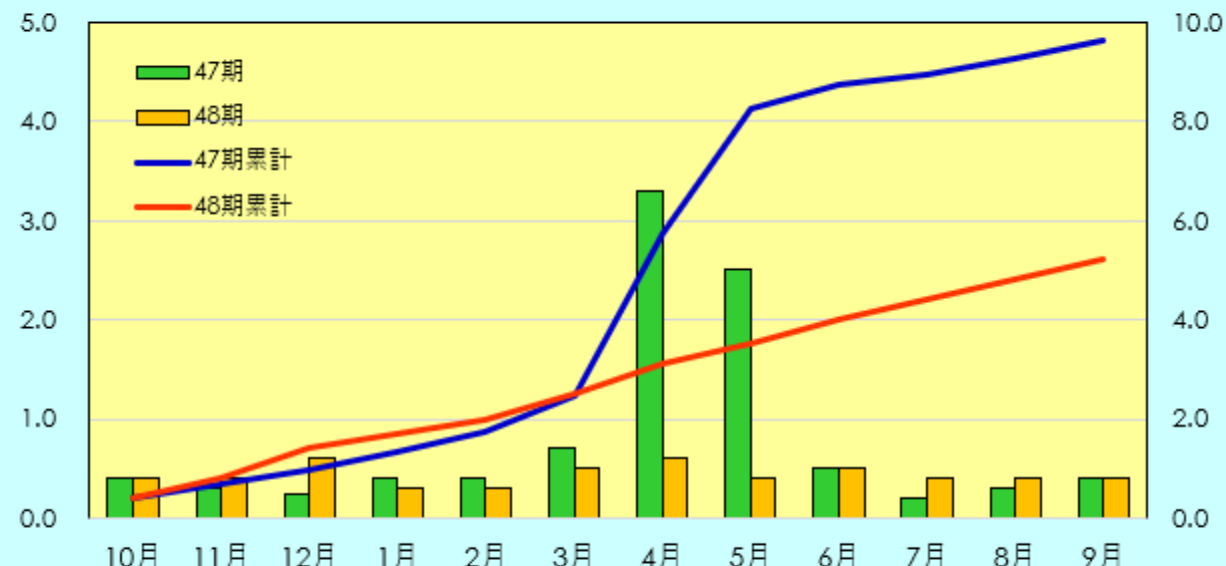
累計/折れ線(kg)



一般産業廃棄物 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(m³)

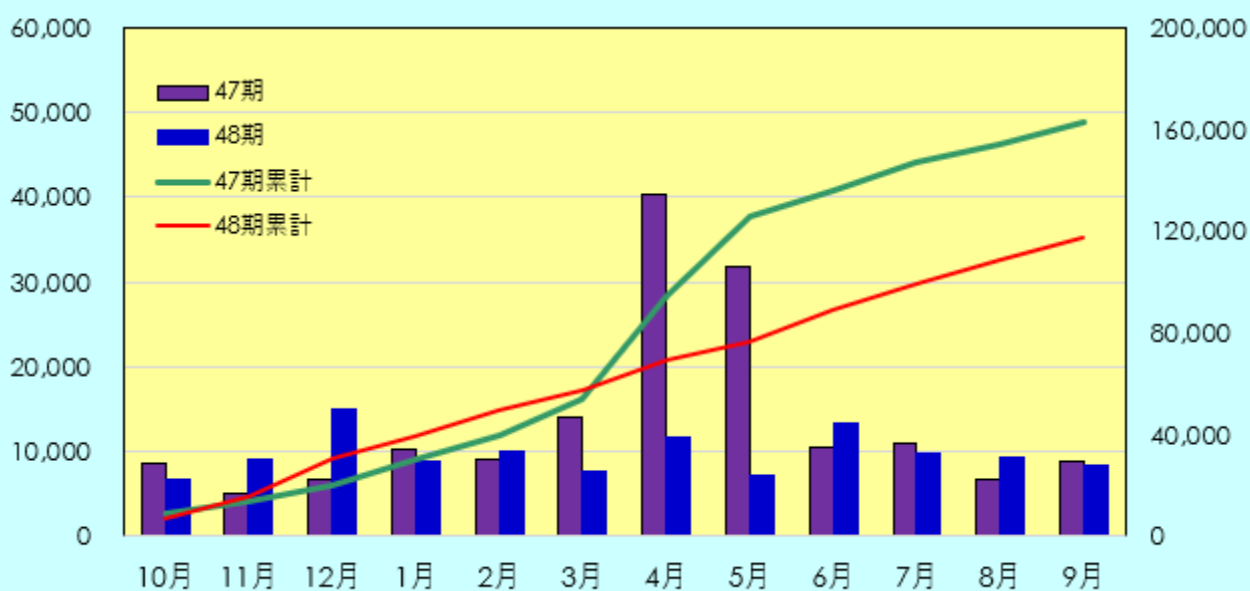
累計/折れ線(m³)



月次/棒グラフ(円)

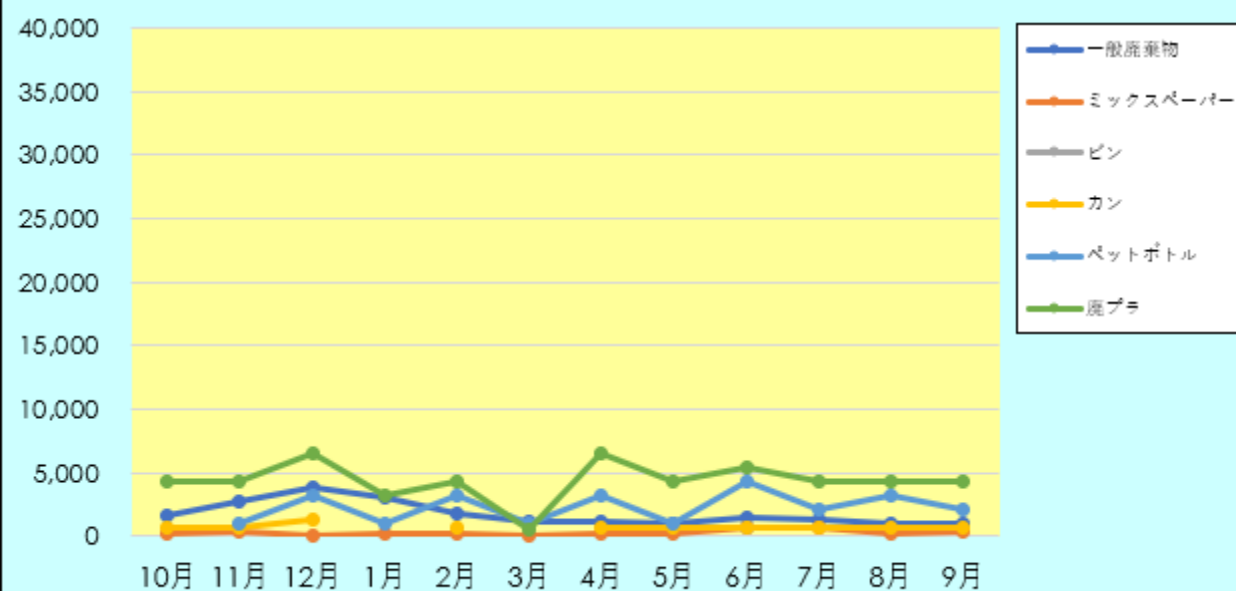
廃棄物処理金額 (累計)

累計/折れ線(円)



(円)

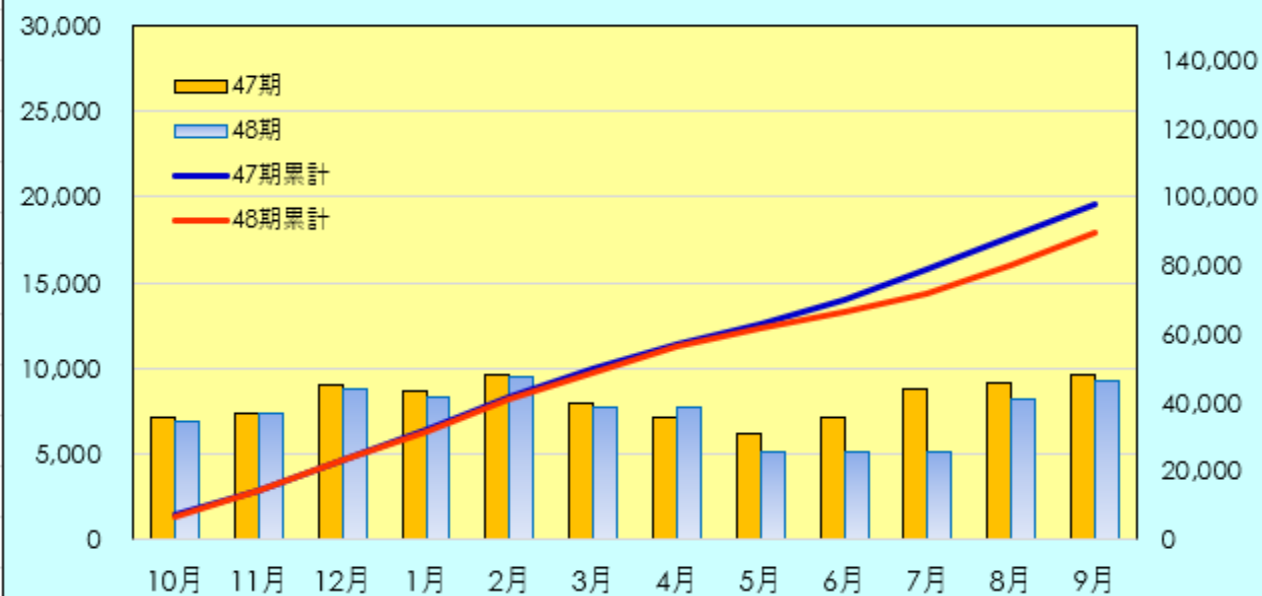
47期廃棄物処理金額



電力使用量 (SSD/本社)

月次/棒グラフ (kwh)

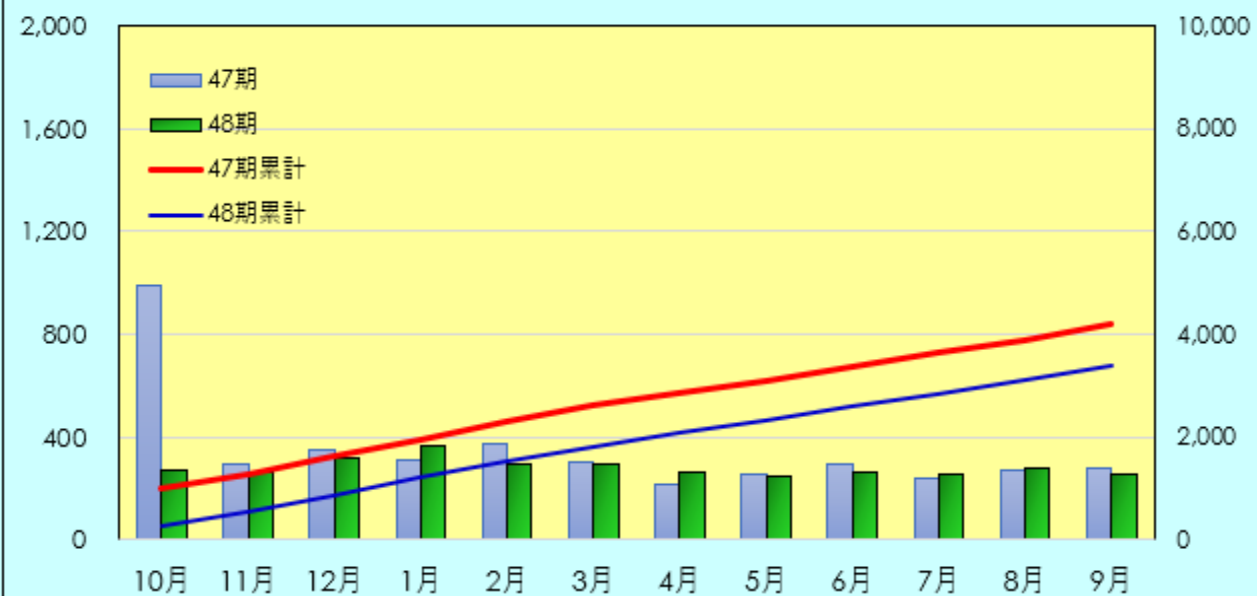
累計/棒折れ線 (kwh)



電力使用量 (SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ (kwh)

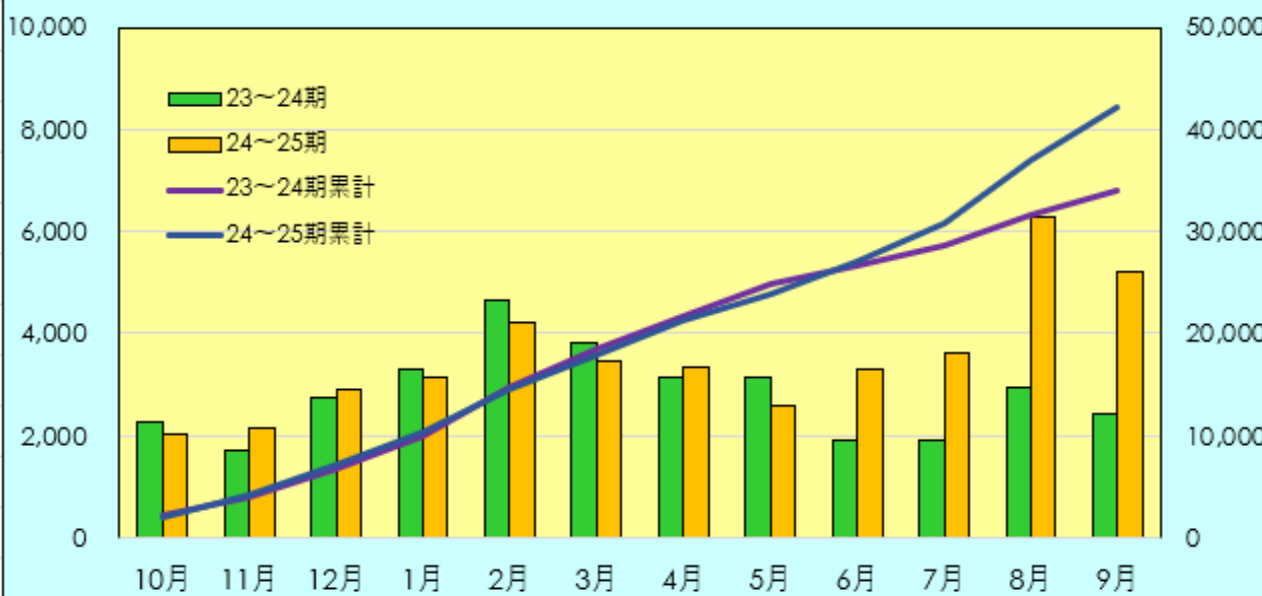
累計/棒折れ線 (kwh)



電力使用量 (SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ (kwh)

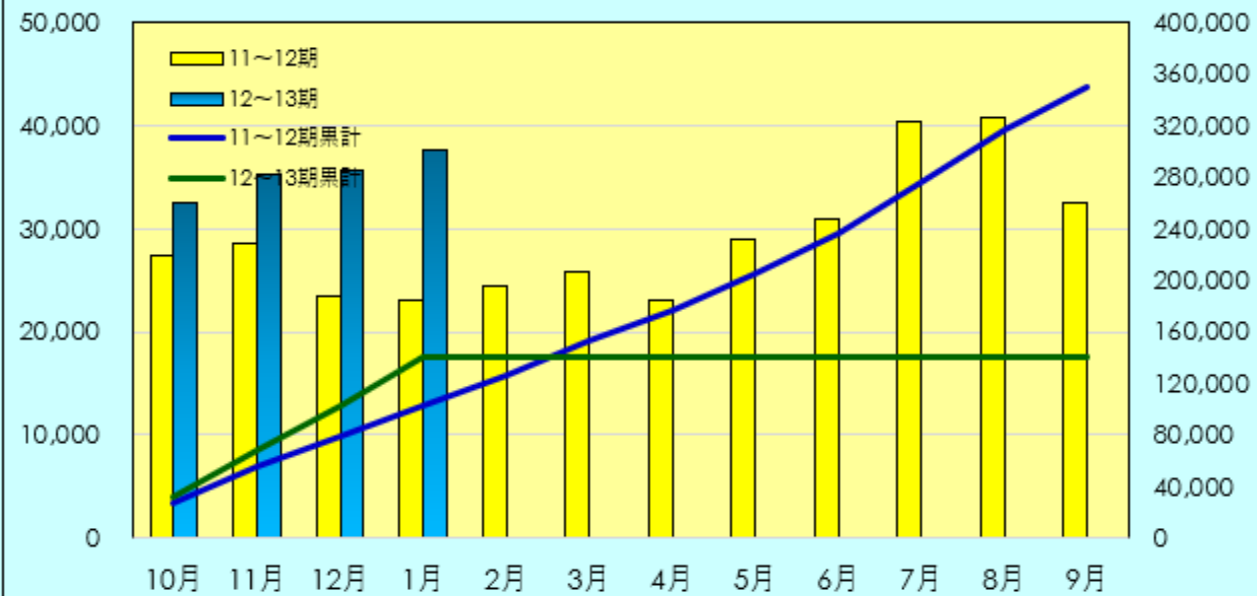
累計/棒折れ線 (kwh)



電力使用量 (CSI)

月次/棒グラフ (kwh)

累計/棒折れ線 (kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

●5S活動の推進 安全で働きやすい職場づくりについて

サンシングループでは、「5S活動」を大切にしています。オフィスや工場など、それぞれの職場環境を整えることは、業務の効率化に加え、事故やミスの防止、品質の維持・向上にもつながります。

活動にあたっては、不要な物の見直しや、書類・備品・工具・部材の置き場所の明確化を進めています。「使った物を元に戻す」「通路に物を置かない」「気づいた汚れをその場で落とす」といった小さな行動の積み重ねが、安全で使いやすい職場をつくれます。また、パソコン内のファイルや共有フォルダを整理することも、情報を探す時間の削減や業務の効率化につながります。

サンシングループは、一人ひとりの気づきと工夫を生かし、5S活動を通じて、安全で働きやすい職場環境づくりを進めてまいります。



地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（9月参加人数：延べ5名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入
- 飼い主のプロを育てる「ドッグライフアカデミー」を創設

